

【児童発達支援】 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室あかねっこ 春日町教室		
○保護者評価実施期間	令和 6年 11月 1日		～ 令和 6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数) 48
○従業者評価実施期間	令和 6年 11月 1日		～ 令和 6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動スペースが十分確保されている。	明るく広い活動室で巧技台、梯子を使った運動遊びやルールのある遊びで他児との関わり場として活用している。	複数の職員で子どものアセスメントをすることで、活動室を使って子どもの発達に有効な支援を行う。
2	事業所を利用する際に、運営規定、支援プログラム、利用者負担について丁寧な説明をしている。	契約の際に重要事項説明書、契約書については保護者と読み合わせを行い、疑問のある点には答えている。	見学や契約の際に支援プログラムの説明もしていく。
3	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	ヒヤリハット、身体拘束報告書の作成、法人内での共有を行っている。	法人内の研修はじめ多くの職員が東京都の虐待防止研修に積極的に参加していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が少ない。	コロナ前は保護者会で少人数の意見交換会があったが、コロナ後は実施はしていない。	保護者会の意見交換会は、環境が整ったら実施できると思われる。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他、地域で他のこどもと活動する機会がない。	個別指導の特性上、保育所、認定こども園、幼稚園との交流の実施は難しい。	教室全体としての交流は難しいが、個別の連携は保護者の希望に応じて実施している。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が少ない。	個別指導の特性上、実施が難しい。	ペアレントトレーニングの実施は難しいが、希望者には他教室や他事業所の情報は発信している。